

リニア新幹線沿線信用金庫共同調査

リニア中央新幹線に関するアンケート調査結果概要(3)

～ 長野県・飯伊地域への期待は中間駅地域で上位？ ～

リニア沿線信用金庫（山梨県：甲府・山梨信金、岐阜県：東濃信金及び当金庫）共同調査の当県・地域分調査結果の続きを紹介する。

1. リニア沿線への認知度・訪問度

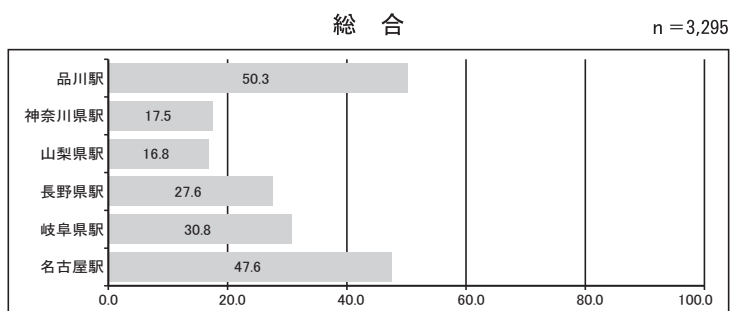
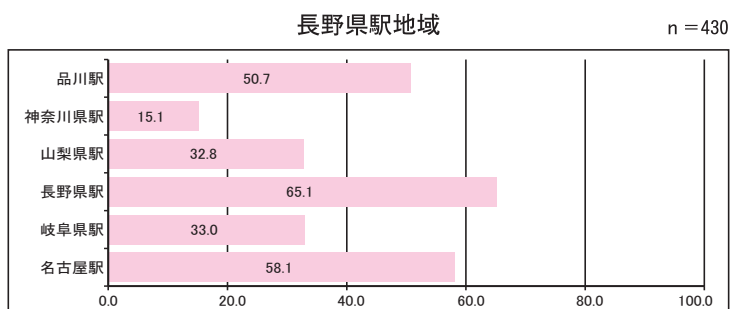
リニア沿線地域共同調査を進めてきたのはリニア開通を見据えて沿線連携に繋がる可能性を見出したい、との思いによるものであることから、先ず相互の地域への認知度、交流の度合いをみるため、それぞれの「駅（駅地域）にいったことはありますか」をお訊きした。グラフの比率は各地域の総回答者数（サンプル数）に対する「行ったことがある」とする回答者の比率である。

当地域では、「長野県駅予定地へ行ったことがある」がいちばん多く、これは当然として、名古屋駅と品川駅がこれに続く。当地域においては名古屋駅がやや多い、という結果になっている。山梨・岐阜県駅がほぼ同水準。神奈川県駅が、いちばん訪問度合いが低い（馴染みがない）駅地域であるといえる。

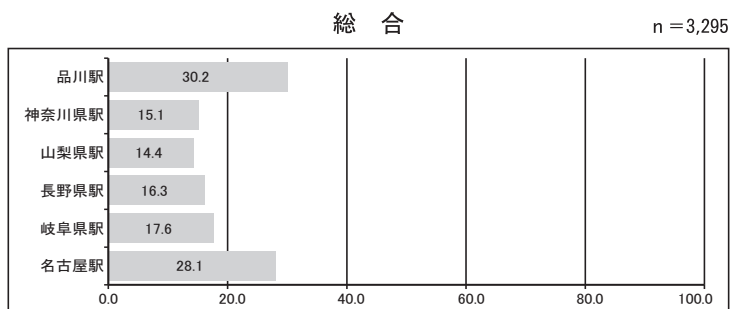
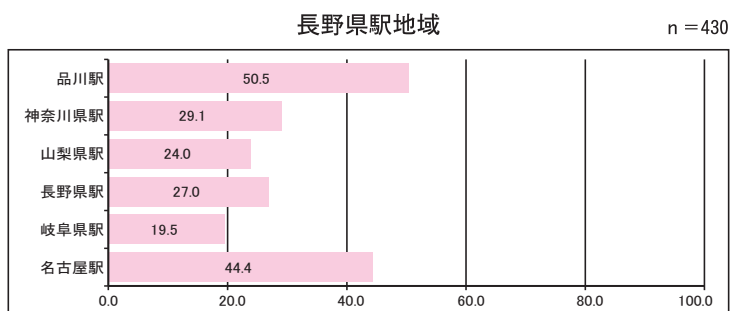
これが「開通後に行ってみたい」の当地域では、品川駅と名古屋駅が並んで多いが、こちらでは品川駅が名古屋駅を上回っている。いちばん馴染みがなかった神奈川県駅が品川・名古屋両駅について高い比率の（訪問希望の多い）駅となった。

総合（調査地域の神奈川県から愛知県までの合計、以下同じ）では、同じく品川・名古屋の終・始発駅が高く、ここでも品川駅がやや上回っている。中間駅では、岐阜県駅、次いで長野県駅、神奈川県駅、山梨県駅の順となっている。

Q 「下記の駅（駅地域）に行ったことがある」



Q 「開通後に行ってみたい」



2. 連携可能性は終・始発駅に集中

リニアによる連携可能性のある駅（駅地域）について訊ねた。

当地域では、連携可能性があるとする駅（駅地域）は、品川駅と名古屋駅がほぼ同水準で70%後半となり、品川駅がやや多い状況となっている。中間駅では地元長野県駅に続いて、山梨県駅、岐阜県駅、神奈川県駅の順となった。

総合でもほぼ似たような傾向を表わしているが、品川駅と名古屋駅では品川駅の方がやや高い（差がついている）状況である。中間駅各駅は長野県地域の結果と同様、終・始発駅に比べ低いが、その中で長野県駅は他よりやや高くなっている。中間駅地域総体での回答で長野県駅(地域)に対する見方として、注目すべきことと思われる。

3. 連携可能性のある項目は何か

リニア駅地域の連携可能性について、どんな項目に可能性があるか、調査では、「移住・定住」「通勤・通学」「ビジネスマッチング」「ショッピング」「観光・イベント」「医療・福祉」「教育・人材」「BCPなど危機管理」「その他」を例示し、解答を求めた。ここでは、各項目への回答（複数回答）の合計を分母とした比率で算出している。

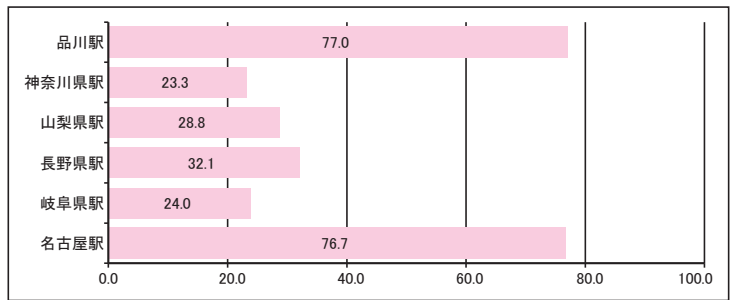
当地域の長野県駅に対する連携可能性項目では「観光・イベント」がトップ。「移住定住」「通勤・通学」がほぼ同水準で「観光・イベント」に次いだ。その他では「ショッピング」「ビジネスマッチング」「医療・福祉」「教育・人材」「BCP」「その他」と続く。

それでは、全地域が長野県駅地域に対しどうみているかが右グラフであるが、「観光・イベント」が突出して高い。注目すべきは「ビジネスマッチング」が2番目に位置していること。他地域が当地域のどんな分野にビジネスマッチングの可能性を見出しているのか、気になるところである。

Q 「何らかの地域連携の可能性はある」

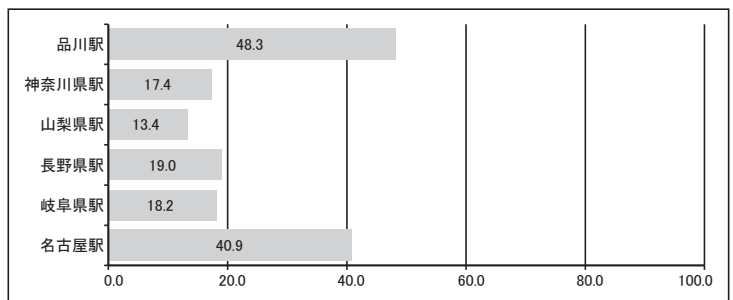
長野県駅地域

n = 430



総合

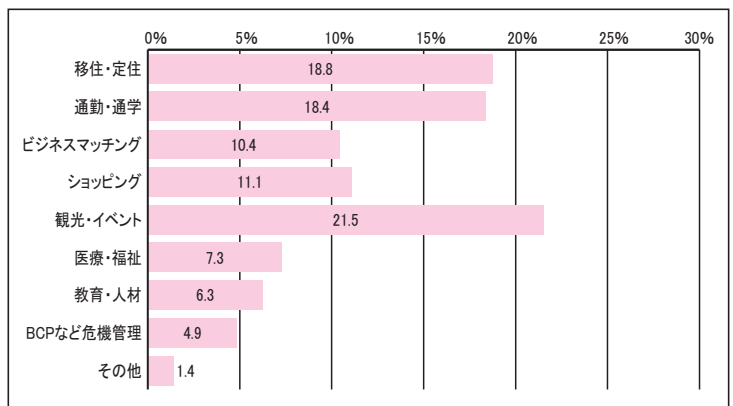
n = 3,295



Q 「どの分野に可能性があるか」

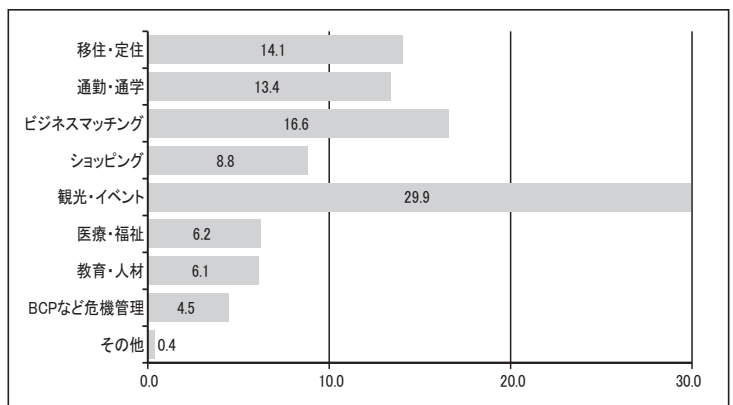
長野県駅について（長野県駅地域）

n = 288



長野県駅について（総合）

n = 1,607



(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)